

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01268

研究課題名(和文) 介護の日本語の理解のための視聴覚素材ライブラリの開発

研究課題名(英文) Development of Audiovisual Material Library to Support Learning of Technical Terms in the Nursing Care Field

研究代表者

中川 健司 (NAKAGAWA, Kenji)

横浜国立大学・国際戦略推進機構・教授

研究者番号：20382830

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円

研究成果の概要(和文)：介護専門用語は、その意味内容により ア) 訳語で理解できるもの、イ) 訳語だけでなく説明が必要なもの、ウ) 言葉による説明のみでは理解が難しく、視覚情報の助けが必要なものの3つに大別され、ウ) は、主に 介護現場に関するものと 利用者の自宅での日常生活に関わるものの2種類がある。ア) イ) および、ウ) については、教材等で一定程度カバーされていると考えられる。一方、ウ) を中心に扱った教材はまだないため、本研究では、介護用語の理解を助ける視覚情報を掲載した視聴覚素材ライブラリ「見てわかる介護のことば」の開発を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

介護専門用語は、その意味内容により (1) 訳語で理解できるもの、(2) 訳語だけでなく説明が必要なもの、(3) 言葉による説明のみでは理解が難しく、視覚情報の助けが必要なものの3つに大別されるが、本研究で開発した「見てわかる介護のことば」<http://mitewakaru-kaigo.com> は、このうちウ) をカバーするものである。受け入れの拡大に伴い、外国人介護人材の多様化、多国籍化が進んでおり、介護専門用語の理解に必要な情報も学習者により異なるが、その意味で、本研究の成果は介護専門用語学習の支援においても有益なものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：Technical terms in caregiving field can be broadly classified into three categories according to their meaning: a) those that can be understood by translation, b) those that require explanation in addition to translation, and c) those that are difficult to understand only by verbal explanation and require the help of visual information. There are two types for c). It is thought that a), b), and c) (i) are covered to a certain extent by teaching materials. On the other hand, there are no teaching materials focusing on c) (ii), so this study developed a library of audiovisual materials, "Mite wakaru kaigo no kotoba" which contains visual information to aid understanding of nursing care terminology.

研究分野：専門日本語教育

キーワード：介護専門用語 学習支援 意味内容 視覚情報 外国人介護人材の多様化

## 1. 研究開始当初の背景

EPA (経済連携協定) 外国人介護福祉士候補者 (以下、EPA 候補者) の受け入れ、技能実習生の対象職種への介護職種の追加、および在留資格「介護」の創設により、日本で就労する外国人介護人材 (以下、介護人材) の増加が見込まれ、彼らに対する学習支援の必要性も高まっている。介護人材のうち、EPA 候補者や在留資格「介護」をめざす留学生は介護福祉士国家試験 (以下、国家試験) を受験することを求められているが、大場 (2016) 主張しているように、国家試験受験に向けた日本語学習においては、文法よりも介護用語の習得がより重要である。それに対応するため、筆者はこれまで介護用語やそこに含まれる漢字を学ぶための学習ウェブサイトを開発、公開してきた。しかし、介護業務はカバーする範囲が幅広く、介護の専門的内容だけでなく、日本独自の制度や日本の生活文化に関する内容も含まれるため、日本語および介護の専門内容を学ぶための環境が必ずしも整っていない介護人材が介護用語を理解し、習得することは決して容易ではない。

筆者のこれまでの研究から、介護用語はその性質により次の(1)から(3)に大別できる。

- (1) 母語にそれにあたる概念があり、訳語があれば理解できるもの
- (2) 日本独自の事物や制度で翻訳してもそのままでは意味が理解できず説明が必要なもの
- (3) 言葉による説明では理解が難しく、視覚情報、音声情報の助けが必要なもの

このうち、(1) (2)に関しては、筆者が開発した学習ウェブサイトを含め、一定程度対応がされているが、(3)に関しては、カバーされていないものが多い。

また、介護労働者の所属機関や学習ニーズの多様化に伴い、彼女ら／彼らの学習の支援を担う学習支援者についても、介護施設の研修担当者、専門学校教員、日本語教師など、多岐にわたっており、その支援内容も多様化していると考えられる。しかしながら、そのような支援者への支援は決して十分ではない。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本文化や日本社会に関する知識を共有していない介護人材が介護用語を学ぶ際に、写真や動画といった視覚情報等、言語による説明以外の支援が必要なのはどのような語であるかを精査し、それらの語の理解の助けとなる視覚／音声情報の素材を作成し、介護人材およびその学習を支援するもの (以下、支援者) がその素材を利用しやすい「視覚素材ライブラリ」を開発することを目的とする。

また、同時に外国人介護人材への支援を行っている支援者にとって有益な情報を提供する「介護の日本語 学習支援ブログ」も目的としている。

## 3. 研究の方法

「視覚素材ライブラリ」で扱う用語は、選定作業実施時に直近の3年間に実施された第33-35回国家試験の過去問題を対象に次の手順で選定した。国家試験を対象にしたのは、介護人材が国家試験に向けた学習を行う際に、過去問題を扱うことが多く、その中に出てくる介護用語を理解する必要性が高いからである。介護の日本語学習支援経験10年以上の日本語教師2名が、3回分の国家試験の過去問題をすべて通読したうえで、「ことばによる説明では理解が難しく、視覚情報の助けが必要」と考えられる用語を、介護人材が日常的に目にする機会が少ないもの、を中心に抽出した。この段階で112語が抽出された。次に、これらの語について前述の2名を含めた共同研究のメンバー5名により採用する用語を取捨選択した。その際に考慮したのは以下の点である。

- ・介護人材が日常的に目にする機会が少ない事物
- ・インターネットで画像検索をしても、適当な画像が容易には見つからないもの

その結果、45語が選定された。45語には、日本以外では必ずしも一般的でない生活用品、システム (例: 浴衣、お薬カレンダー、配食サービス)、動作 (例: 腕を組む、浅く座る、背筋を伸ばす)、介護用品・道具・施設にある用具 (例: 耳かけ型補聴器)、利用者の居室・住環境に関するもの (例: 開き戸、引き戸、パネルヒーター) といった語が含まれる。

また、「介護の日本語 学習支援ブログ」に関しては、介護の専門日本語教育の経験が5年以上の日本語教師7人が執筆しており、内容はこれまでの介護の専門日本語教育の経験に基づいている。専門性を担保するために介護の専門家による監修を受けている。

## 4. 研究成果

本研究で開発した、視聴覚素材ライブラリ「見てわかる介護のことば」<<http://mitewakaru-kaigo.com>>の仕様は以下の通りである。

本ライブラリは、「A. 用語の一覧ページ」と「B. 各用語の詳細ページ」からなる、ウェブサイトである。Aで用語を選択するとBに遷移し、当該用語の写真 (動画) や、その用語が用いられた国家試験の問題、補足情報が閲覧できる。ここでいう補足情報とは、例えば「パネルヒーター」という語であれば、「室内をあたたくする器具。ストーブ等と比べて高齢者がやけどをしにくい。トイレや浴室等狭い場所にも設置可能。」という情報のことである。

収録対象となっている用語は分野を網羅するようなものではなく数も限られる。そこで本教材では、一般の用語データベースに見られるようなキーワード検索機能やカテゴリー分類よりも、シンプルにすべての用語をリストとして見せることを優先している。これは、サイトの訪問者が収録用語の全体像を早く把握できるようにすることを意識した設計である。

掲載している写真素材はすべてダウンロードして自由に加工して使えるようになっているが、素材のまま提示すれば済むような場合も多いと思われる。そこで、拡大表示機能とスライドショー機能を用意し、タブレットなどの端末での直接表示や、プロジェクターを使った投影でも使いやすくしている。

また、「介護の日本語 学習支援ブログ」<<https://kaigo-nihongo-blog.com/>>には、現時点で約 20 編の記事が掲載されており、記事の例を挙げると「外国人介護人材に必要な日本語」「認知症の学習の支援」「介護現場で用いるオノマトペの指導法」「介護施設の種類やそこの業務」など、介護の日本語の指導方法だけでなく、日本語教師が学習支援をする際に知っておくべき学習者の置かれている状況に関する記事も掲載されている。各記事には「音声」「認知症」「インドネシア人学習者」などのラベルがついており、読者はそのラベルによって記事を検索し、自分の関心がある内容の記事を選ぶことができる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 中川健司・布尾勝一郎・角南北斗
2. 発表標題 介護の日本語教材の対象者に関する調査
3. 学会等名 第30回日本介護福祉学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 角南北斗・黄海洪・中川健司
2. 発表標題 日本語学習教材における合成音声の実用性 「やさしい日本語でまなぶ介護専門用語集」の実例を基に
3. 学会等名 第60回日本語教育方法研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 黄海洪
2. 発表標題 介護福祉士国家試験における漢語表現の調査 フォーミュラ研究の観点からの分析
3. 学会等名 第60回日本語教育方法研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中川健司・布尾勝一郎・角南北斗
2. 発表標題 介護の日本語の学習支援者への支援を 目的としたツール、ウェブサイト開発の試み
3. 学会等名 第29回日本介護福祉学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中川健司
2. 発表標題 介護の日本語教育の研究上の関心の推移
3. 学会等名 第57回日本語教育方法研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 角南北斗・中川健司
2. 発表標題 語彙教材作成支援ツールの開発と業務の効率化
3. 学会等名 第17回 マレーシア日本語教育国際研究発表会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中川健司・角南北斗・齊藤真美・布尾勝一郎・橋本洋輔
2. 発表標題 支援者への支援を目的とした介護の専門日本語学習支援情報サイト
3. 学会等名 2020年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 布尾勝一郎・角南北斗・奥村匡子・齊藤真美・中川健司
2. 発表標題 介護用語学習支援のための 視聴覚素材ライブラリの開発
3. 学会等名 第26回専門日本語教育学会研究討論会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

視覚素材ライブラリ「見てわかる介護のことば」  
<http://mitewakaru-kaigo.com>  
介護の日本語 学習支援ブログ  
<https://kaigo-nihongo-blog.com/>  
やさしい日本語でまなぶ 介護専門用語集  
<https://yasanichi-kaigo.com/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	橋本 洋輔  (HASHIMOTO Yosuke)  (30568770)	国際教養大学・国際教養学部・助教   (21402)	
研究分担者	布尾 勝一郎  (NUNOO Katsuichiro)  (90448019)	立命館アジア太平洋大学・言語教育センター・准教授   (37503)	
研究分担者	中村 英三  (NAKAMURA Eizo)  (00549991)	長野大学・社会福祉学部・教授   (23602)	
研究分担者	宮本 秀樹  (MIYAMOTO Hideki)  (40453401)	長野大学・社会福祉学部・教授   (23602)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------